

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	しぶやきょういくがくえんしぶやこうとうがっこう				②所在都道府県	東京都
26～30	①学校名	渋谷教育学園渋谷高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	平成25年度在籍数 615名	
普通科	208名	206名	201名		615名	1年 208人 2年 206人 3年 201人	
⑥研究開発構想名	探究型学習を、いかにして「行動できるリーダーの育成」につなげるか						
⑦研究開発の概要	複数教科・科目から学ぶアプローチと、問題発見・解決型の活動を重視し、それにより知識の充実、発信意欲・技術の向上、交渉・連携しつつ行動する力の強化を図る。テーマを「人間の安全保障」とする。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標 目的:グローバル・イシューに対する基礎的な知識の習得、自ら課題を発見する強い好奇心、ものごとを多角的に検証し課題を解決に導く思考力、コミュニケーション能力や行動力を備えた人材の育成。 目標:海外の高校生との議論を通して自分自身について考え、新たな行動の動機付けにつなげること。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説 現状の分析:知識はあるが、広い視野でものごとを考えられない生徒が一定数おり、問題の深刻さに気づけない傾向にある。また、本校の生徒の英語力は高いが、その場で議論ができる力については強化が求められる。 研究開発の仮説: 1. 課題への探究活動を通じて、生徒に問題意識を喚起させ、互いの意見を交わすことで、多面的なものの見方を育むことができる。 2. 国語科の教科指導や論文指導を通じて、論理的思考力を育むことができる。 3. 英語力の自信の有無による制限は設けず、様々な英語の探究課題に取り組みせることで、すべての生徒の発言力を強化することができる。 4. 国内外の高校生や大学・大学院生、企業や国際機関などの専門家と授業内外で交流することによって、お互いに刺激し合い、行動力の触発につなげることができる。</p> <p>(3) 成果の普及 学会や教育事例コンテストなどでの発表、ホームページ上での公表、メディアを通じた取り組みの紹介、幕張高校と提携した情報共有</p>					
	⑧-2課題研究	<p>(1) 課題研究内容 課題研究内容: グローバル・イシューとして「人間の安全保障」を取り上げ、平和や人権に関わる課題に取り組む。加速する変化の時代を生き抜く方策を考え、多面的・複合的な平和学習を行い、交流を通して人の結びつきの意義を実感し、実際に社会貢献活動を企画し行えるような探究活動を通じ、高校生が課題解決に向けての方策を考え実践できる人材へと成長できるカリキュラムを開発する。テーマとしては「人口動態の変化と女性の教育・働き方」(The World in 2050、Social Justice)、「核兵器の現状と課題」(Project Hiroshima、修学旅行プロジェクト)、「紛争とこどもの人権」(Wars and Conflicts)を挙げ、深めていく。</p> <p>(2) 実施方法・検証方法 <実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ● The World in 2050 (知識、発信) これからの社会についての分析・予測から、今なにをすべきか考える ● Project Hiroshima (知識、発信、行動) 核兵器、平和、歴史、文化などの観点から広島について広く深く学ぶ ● Wars and Conflicts (知識、発信) 					

		<p>平和に関する学びのまとめとして、現実の課題を見つけその解決策を模索する</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 修学旅行プロジェクト（知識、行動） 事前事後の学習を充実させ、現地での人的交流を行う ● Social Justice（知識、発信、行動） 学びを拡張し、人々が安心・安全に暮らせるための社会貢献活動を行う <p>< 検証方法 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトの開始前後に関連したトピックで英文のエッセイを書かせ、内容や使用されている語彙の違いを検証する。また、参考として、本プロジェクト対象生徒の中から無作為に数名を選出し、同時期に同トピックでスピーチをさせる。 ● プロジェクト前後に、日本語と英語とを問わず、ニュースに対する興味、データの活用に対する関心、自主的な学習習慣についてのアンケートを行い、検証する。 ● 本プロジェクトに関連する、国内外の公益性の高いコンテスト・国際学生会議等に自主的に参加したか、またどのような貢献ができたのかをヒアリングする。 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 中高一貫校である特徴を活かし、6年間を通じて、英語力・論文作成を通じた論理的思考力・情報リテラシーを向上させる取り組みを行う。生徒へのアンケート、GTEC を含めた外国語運用能力テストの実施、外部コンテストへの積極的な参加を通じて検証を行う。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備, 教育課程課外の実施内容・実施方法 帰国生及び留学生の積極的な受け入れ、海外留学支援、英語圏及びアジア諸国への海外研修の実施。</p> <p>(4) 幹事校としての取組(該当する場合のみ記入) 特になし。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		<p>平成 30 年度を目標に幕張高校と連携し、国内外の高校生が参加できる国際会議を開催する。また、新潟県と連携し、教員を年間を通じて受け入れ、SGH の授業に参画することで、プログラムの普及に努める。</p>